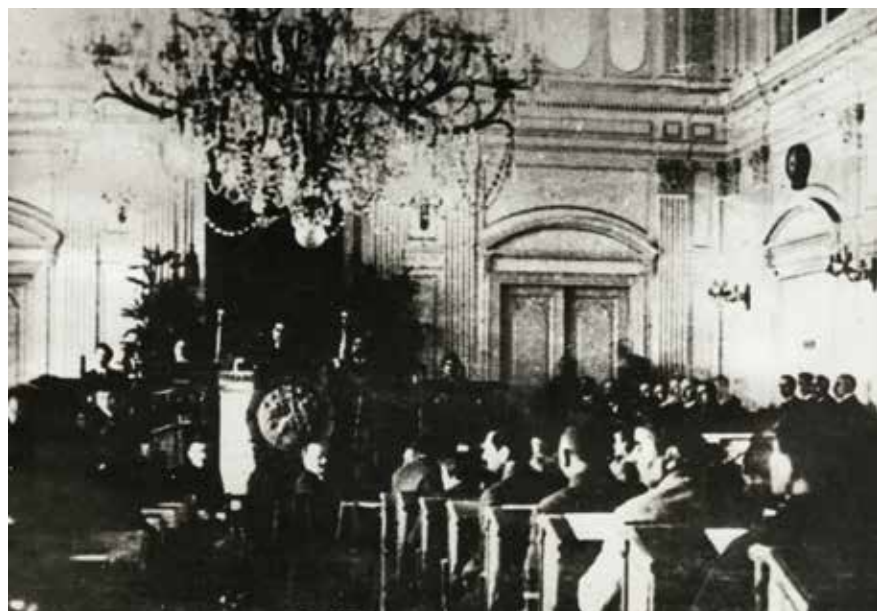


帝国領からの議会共和国に (1917年2月～1918年5月)

ロシアの2月革命の勝利と臨時政府の樹立が大幅に国民の動きとコーカサスにおける政治的発展のプロセスを加速する。9月上旬に、アゼルバイジャンの政治勢力をリードして結集し、アゼルバイジャン中部ザカフカースイスラム教徒の国民評議会に設立された。1917年の夏と秋の間に「Musavat」党のリーダ

ーシップの下で、各国の政治勢力アゼルバイジャン南コーカサスの統合を完了した。「Musavat」は労働者と兵士の下院バクーソビエト。労働者と兵士のスペイン下院でバクーソビエトで秋の選挙に勝った。議会党はロシア連合共和国の一部とアゼルバイジャンの自治を確立するために、アゼルバイジャンの政治指導者の

方向を確認した。しかし、ロシアの10月革命後、ボリシェヴィキはレーニン率いる、権力を握った。ボルシェビキの政治的プログラムは、母集団国民党が自分の力を認識することを拒否した人口に合わせていませんでした。南コーカサスにおける最高権威 - 1917年11月28日はザカフカース兵站を設立しました。兵站全国制憲議会の招集までの一時的な身体だった。選挙は1917年11月26～28日で開催された。ボリシェヴィキは少なくとも票を獲得した。しかし、ボルシェビキは初日に制憲議会を解散した。ザカフカースセイム - 自治体を形成するために、1918年2月14日に続いて、地域の議員から選出されたことを決めた。国会は声に合わせて、上記の当事者の



1918年12月7日、アゼルバイジャン民主共和国の議会の第1回会合



代表者で構成されますが、ボリシェヴィキは、国会への参加を拒否した。1918年3月3日のブレストリトフスク平和、ソビエトロシアはコーカサスの関係で邪魔にならない、その軍隊を撤退することを約束した。ロシアがオスマン帝国との戦争のために作成したアルメニア軍人を、「アルメニアの軍隊を動員解除し、解散することを約束した」。しかし、ボルシェビキは、スターリンは、1918年3月16日に決めていなかった、すべてのソ連機関がアルメニア軍の作成を支援するように指示された。アルメニアはオスマン州およびコーカ

サスのアゼルバイジャン人口の占領地でのトルコの人

口を恐怖に陥れるようになった。アルメニア県は人口が135,000人、80,000人イスラム教徒がいる200以アゼルバイジャンの村の人口が難民を破壊した。セイムのM. Seidovのメンバーは、アルメニア人部隊によるイスラム教徒の虐殺と結論として。「特定のタスクを追求 - アルメニア難民のエリアをクリアし、独立したアルメニアのためのコンパクトなユニットを作成する」。国会の統一への大きな打撃に起因する3月下旬—4月初めころに発生した - バクーの大虐殺と

バクー地区の村でアルメニア軍の手には数万人の民間人の何千ものを殺した。バクーの平和なイスラム教徒の人口の3月の大虐殺は、独立性の質問にアゼルバイジャン議員を運転した主要な推進力となった。アゼルバイジャン国会議員は、イベントでのザカフカースセイムと政府の管理の受動的な態度に不満だった。国会懸念アゼルバイジャン議員は、強制送還の政策や地域の民間人のイスラム教徒人口に対する民族浄化のみならず、バクーの流血の軍事クーデター後請求Dashnakバクーに定着した。

5月26日グルジアが独立

を宣言したら、セイムが存在しなくなった。1918年5月28日、アゼルバイジャンのイスラム教徒の国民評議会は「東部南部コーカサス内の独立した民主共和国」を宣言した。アゼルバイジャン民主共和国の独立宣言 - イスラム世界で最初の共和国 - アゼルバイジャン国家としての地位の3000年の歴史の中で優れたことだった。

アゼルバイジャンの重要性は、北と南、ヨーロッパとアジア、黒海とカスピ海、キリスト教徒とイスラム教徒の文明間の戦略的岐路にユニークな地理的位置によって決定された。アゼルバイジャンは、独立した議会共和国として発展している中、1918年から1920までの期間は、国際関係とは無関係に、被写体の状況に、ロシア、トルコ、ペルシャの間の地域対立の対象から自分の世紀にわたる進化を完了した。その結果、23ヶ月の期間は、アゼルバイジャン議会共和国は2つの対向するトレンドの寿命の作用によって示された。アゼルバイジャン側から一貫してソ連と対等な関係を確立する政策を追求し



てきた。このコースでは、「北」方向に3つの問題に対処するために、国の客観的関心を反映していた：最大の隣人から外交的認識を提供すること；アゼルバイジャン議会共和国の安全性を保証するものでは彼と同等の二国間関係を確立すること；ロシアとの貿易や経済交流を復元することであった。ロシア側では、アゼルバイジャン議会共和国の外交、軍事の非認識とそれに対する政治的圧力の政策、国際舞台での地位の弱体化、意図的にアゼルバイジャン国家の内部としての地位の基盤を緩める、地域の努力と白人バクーボルシェビキ団体によって、代表者は合法的にバクーで動作しているとさえ国会で導

入された。

1920年にアゼルバイジャン議会共和国の占領の秋にもう一つの重要な要因は、地域におけるトルコとソ連ロシアの戦略的な願望の近さで、お互いの相互支援の両方のモードの関心に基づくことであった。トルコ大国民議会国会への移行 (GNAT) 以来、1920年4月23日発売された。そして、M. K a m a l のリーダーシップが率いる国民政府はソビエトロシアとの協力の一貫したポリシーを持っていた。それで、その時、ロシアが軍事技術的、財務、材料はケマリスト (K a m a l と働いている方) の政治的支援の唯一の源となった。地域の位置とその軍事における相互の支

援における相互の関心と政治的対立を統合における共通の目標の戦勝国とアゼルバイジャンの独立した将来のため万が一コメントはなかった。1920年3月～4月アゼルバイジャンのボルシェビキクーデターの組織内のトルコの要因の本当の役割についての説得力のある議論は、権威あるアメリカの学者Tadeush Svietohovskyが言った。「バクーにいたトルコケマリストがアンカラ政府を支持してイベントを有効にしようとする状況で介入した。4月上旬に、彼らは彼らのグループを調整するために会った。会議の参加者の中には、アゼルバイジャン共産党と共同で取り組んでいたし、3月バクートルコ共産党の主

催者の中にもあった。カリル・パシャとフアド・サビットを含め調整センターは、決議を採択して、アゼルバイジャンの危機に向けたトルコのポリシーを定義した。その3つの主なポイントは次のとおりだった：1) 現在のスピーディー転覆で、アゼルバイジャンのプロ英国政府と政府によるその置換、ボルシェビキと協力することができ；2) 管理宣伝、印刷、出版活動や戦争行為の単位でボルシェビキが含まれている、政府の変化の実施のための委員会の設置；3) 唯一のトルコ共産党の要請でバクー赤軍の占領し、委員会の意見では、トルコとアゼルバイジャン共産党が共有する、アゼルバイジ

ヤンの征服は避けなければならない。」

後でトルコの指導者自身ことを確認したその結果、最短時間でバクーにロシアのソ連占領のトルコが非常に積極的な支援があった。1920年8月24日GHATの会議でムスタファ・ケマルは「私たちの影響力のある協力とこれらの軍隊の助けを借りて（XとXI軍を意味）、簡単に北コーカサス、アゼルバイジャンが締結合格した。到着した軍隊はアゼルバイジャン人によって安心に取り入れた。ソ連軍はアルメニアとグルジアの国境で、必要な軍事的、戦略的な措置を取って、それは私たちとの直接通信を確立するために始めた」。アゼルバイジャン議会共和国でこのプロセスにおいて同様に重要な役割は、貴重な軍事的、連合国からの政治的、外交的支援の日没を果たしたのが第一次世界大戦中の戦勝国（アメリカ、イギリス、フランス、イタリア、日本、最高評議会は、後1919年1月12日パリ講和会議を開いた - 日本の「カットオフ」の後に、1919年3月には、 - 「ビッグ4つ」になりま





した」)であった。

アゼルバイジャン議会共和国とその他の国、かつてのロシア帝国の郊外に作成された国は「ビッグ4つ」によって独立性認識の戦略は、独立したと見られていないことで、ソビエトロシアタスクとの関係の誘導体であった。アゼルバイジャン議会共和国の独立性の認識は、いわゆるソリューションに厳密に依存していた「ロシアの問題」、それによって彼らはその政策やロシアのブルジョア民主主義政権の君主修復の成功または失敗を意味する。

1918-1919年に連合をリードすると、その境界線の周囲にソビエトロシアの地政学的な位置を弱める必要性に全会一致で、ボルシェビキ脅威文明化西洋のソースとしてそれを見ていた。しかし、初期の1919年にイギリスの支配円はボルシェビキへの影響を提供する能力を制限した。ザカフカース共和国の独立を支援する能力の再評価の最終段階に来た—主にアゼルバイジャンとグルジア、この領域上のモスクワのコントロールを回復封じ込め不可逆的なプロセスであった。

すでに半ばに1919年にイギリス外務省の覚書で「英国の関心は短期的には報われないミッション（親権ザカフカース地方）以上のものを提供するのに十分強力ではありませんでした」。

その結果、壊れやすいアゼルバイジャン議会共和国の独立性の保証として見られたイギリス軍は、1919年8月の終わりまでバトゥミの小さな駐屯地とトランスコーカシアオリバーウォーにおける高等弁務官率いるバクーの外交使節団コーカサスから採取した。

1918年の終わり—1920年

アゼルバイジャンの独立宣言

の初めの間に、ワシントンでの欧州の政治の中心にあった均衡のシステム、ここでドイツ人は、英国とフランス、そしてヨーロッパの小さな国は大国を抑止の作成を行った。唯一のそのようなシステムは、ヨーロッパと世界の仲裁人の彼らの役割を戦後世界における米国のリーダーシップを提供することができた。ロシアはカウンタードイツのバランスを、チェック・アンド・バランスのヨーロッパのシステムの一員となった。このため、新共和国の問題は、その認識の点ではないと考えられ、かつてのロシア帝国の領土を宣言ししかし、カウンターバランスロシアの作成のコンテキストで、彼に割り政権をプッシュ、ボルシェビキ当てられた役割を果たした。

上記に関連して、米国は、アゼルバイジャン議会共和国を含めた旧ロシア帝国の新たに独立した共和国のための認識と政治的支援に急がなかった。ベルサイユ講和会議にアゼルバイジャン代表団の会長Ali Mardanbek Topchubashevは、1919年5月28日に米大統領ウィルソンとの代表団

の会合は明らかに持続し、明確に自分の国の位置を定義したと指摘した：米国を小片に世界を分割する必要はない；彼はコーカサス連盟の教育のアイデアに満ちていた場合は、アゼルバイジャンは良いだろう；この連合は、国際連盟に代わって、いくつかの大国の援助の下になる；アゼルバイジャン議会共和国の認識の問題は、ロシアの質問の前に決済することができない。

パリ会議のアゼルバイジャン議会共和国の代表団のメンバーとの会話中にイタリアの代表的な意味で表現されて、その場合は「ロシア連邦共和国の像（ボルシェビキを意味じゃなくて、ブルジョア民主共和国）多分、コーカサス連盟はロシア連邦に参加する。このアプローチの開発に1919年6月にイギリスの連合国による取り組みの積極的な役割は、かつてのロシア帝国の支配者としてコルチャークの認識の問題と考えて、エストニア、ラトビア、グルジア、ベラルーシ、ウクライナ、アゼルバイジャンの代表団から抗議ノートに反対をした。1919年7月31日イタリア軍の任務コーカ



サス大佐ギャバからローマの位置をアゼルバイジャン議会共和国の内務省、M. Djafarov向けに電報が送られた：「イギリス軍の代わりにトランスコーカシアのイタリア軍の送信は行われません・・・イタリア王国政府は、あなたの国の政府との友好関係を維持し、2国間の商業金融・労使関係の発展に貢献したいと考えています」。フランスは、アゼルバイジャン議会共和国の独立を支援する意思をその同盟国よりもさらに小さく表明しているが、これは、その利益の範囲に含まれていなかった。アゼルバイジャン議会共和国は多くの注目とやる気のフランス外交の対象ではなかった。

しかし、ロシアの内戦の間に1919年の終わりに



この決定は、英国、フランス、イタリアの代表によって作られた。その後、彼は日本が参加しました、米国はまた、障害を報告している。1月15日に、フランス外務省の建物は、アゼルバイジャン代表団の決定の公式式典を開催した。1月15日～19日の間に、軍事専門家のレベルで認識された2共和国に軍事援助の問題を議論した。レポートの軍事専門家は、元帥フェルディナンドフォッシュを公表した。クレマンソー、フォッシュと戦争大臣チャーチルはコーカサスに派兵提唱し

危機だったとペルシャやトルココーカサスを通じて画期的なボルシェビキを脅した。1919年11月17日には、英首相ロイド・ジョージは、彼はコーカサス情勢と中東のボルシェビキを進める新たな脅威について深い懸念を表明している音声と下院で話した。演説で首相は二回ソビエトロシアに入ることを希望していない国としてアゼルバイジャンに言及した。11月下旬、ロイド・ジョージはパリ、ポークのアメリカ代表団の頭部との会話を持っていた、シングルボルシェビキロシアはヨーロッパへの深刻な脅威になってきていることを彼に警告し、そのため「グルジア、アゼルバイジャン、ベッサラビア、ウクライナ、バルト地方やフィンランド、だけでなく、可能な限り、独立したシベリアでなければならない」。

連合国のより毅然としたポリシーを開発、特にイギリスバクーとティフリス英国代表の報告に大きく貢献、必死に油が豊富で、この戦略的に重要な地域を「戦わず降伏しないよう」促し、ロンドンの伝統的な「関心のある分野」へ

の道を開く。ロンドンアゼルバイジャン議会共和国の地域の積極的な武装と軍事支援を保護する計画を断念した。しかし、完全に「その手を洗う」と身を引くことができなかった。ウォーストストック位置アドミラル収束ケマリストとボリシェヴィキ、そして最も重要なことから永続電報 - イギリス軍を送る「YES」の認識、「NO」：イギリスの利益の日「赤い脅威」ゾーンによる成長の日は、ロンドンの妥協位置をもたらした。

1920年1月11日最高評議會は次のように述べている提案カーゾン、決議採択された「労働組合と米国が共同で事実上のレベルでアゼルバイジャンとグルジアの政府を認識しています」。



